

こども通信

診療時間は午後2時～5時です。
水曜午後の外来を行っています。

受診困難な患者さんや、受験前で
象者を拡げて、急性疾患も対象とし
ました（といつても、検査が必要な
ど、受診をしないといけない患者さ
んもおられます）。

突然の衆議院解散！　この大雪の
中、急がなければいけない理由がど
こにあるのでしょうか。

雪国だから仕方ない、とは思いま
す。でも、青空が見たいな。
早く雪がおやまつてくれないひとを
願っています。



当院でもオンライン診療を始めました。今のところ、順調です。
当初は慢性疾患で、症状の落ち着いている方が対象でした。
ところがこの大雪！　急きょ、対象者を拡げて、急性疾患も対象としました（といつても、検査が必要など、受診をしないといけない患者さんもおられます）。

ほか、このオンライン診療も並行して行っています。皆さんのお望みをできる範囲で叶えていきます。

凄まじい大雪です。通勤や通学困難になる方も少なくないでしょう。雪国だから仕方ない、とは思いますが、でも、青空が見たいな。
早く雪がおやまつてくれないひとを願っています。

受診したくない（笑）患者さんにはとても優しいシステムになってしま
うと思します。
また麻疹の流行などでも、オンライン診療は役に立つておつか。

受診したくない（笑）患者さんにはとても優しいシステムになってしま
うと思します。

小児科・アレルギー科
漢方内科
上越市栄町 2-2-25
TEL 025-544-7777(代)
025-544-7779(保育室)
FAX 025-544-8456
ホームページ
www.kodomo-iin.com



感染症情報

インフルエンザは昨年秋からA型が流行していました。現在A型はほぼ収束したようですが、新たにB型が流行しています。ちょうど受験シーズンでもありますから、かからないよう手洗い、マスクなどの日常的感染予防の対策をしてください。

新型コロナウイルス感染症は少數の発生です。

感染性胃腸炎の発生が少しずつ増えています。嘔吐と下痢があり、乳幼児では脱水や低血糖にならないように注意が必要です。

溶連菌感染症も多くなってきました。強い咽頭痛と発熱が特徴です。

麻疹（はしか）の発生が当地でもありました。40歳代の方の発生です。さらにその関係者で2名の発生も報告されています。今後さらに発生が続くことも考えられます。十分に注意してください。

麻疹の予防接種は1歳代と入学前1年間の2回が必要です。1歳になつたら早めにワクチン接種を受けてください。さらに、0歳の後半からは母からの移行抗体もなくなつていて、「無防備」な状態になっています。保育園に行つているなど、多少とも感染のリスクがある時には、ワクチン接種を考慮してください（任意接種）。

また年長までの期間でも麻疹になる可能性はあります（修飾麻疹）。やはり感染リスクのある方は、もう一度ワクチン接種を受けておくとより麻疹にかかりにくくなります。

麻疹の流行が拡がらないように願っています。

でも、緊急に解散を要するものには思えません。こんなことをしていると、新年度の予算編成が遅れそうだと、国会での論戦を通して物価高対策などをしていく方がずっと有意義です。

でも、それはいつでも選挙がありまます。ぜひ投票所に行き、1票を投じたいと思つます。

いか。特に年末に韓国で公表された旧統一教会の関係文書に、高市総裁の名前が出ていなっています。

麻疹が発生！

416号(2)

その後の三次感染が起きないことを期待したいと思います。

当地の小児科に衝撃が走りました。

た。麻疹（はしか）の発生があつたのです。

初発の患者さんは40代の方です。

どこでもらつたのでしょうか。ワクチン接種歴はないそうです。

年末に出かけていてもらつたよう。その後、発症してからあちこちに行っています。

最初の医療機関では分からず、病院に行って麻疹と気づかれました。入院になりましたが、今は退院して普通の生活を送っているようです。合併症などがなくて良かったです。

問題はそこからの二次感染です。大人や子どもの発生も確認されました。

いずれもワクチン接種を1回はしているので、軽く済んでいるようです。修飾麻疹と思われます。

修飾麻疹では、典型的な麻疹の症状が出ることもなく、ウイルス量も少なく、その結果、他の人に移す感染力も少ないことが多いです。

●麻疹とは

麻疹は、麻疹ウイルスによる初感染です。急性熱性発疹性疾患の一つです。

10～12日間の潜伏期のあと、38度以上の発熱、咳、鼻水、目やに、咽頭痛などの感冒症状がでます（カタル期）。

通常の感冒よりも滲出液が多く、何となく嫌な感じがします（主観ですが）。

「カタル」とは粘膜の表面で起きている滲出液が多い状態を言います。臨床医の勘になるのですが、通常の風邪とは違う感じがします。

カタル期の最後に、口腔内の頬粘膜にコプリック斑という、白い発疹が現れます。これを見つければ、麻疹を大いに疑うことになります。

この時に一旦解熱傾向にあります。が、その後40度ほどの高熱が出ます。

それとともに、全身に発疹が出現します（発疹期）。

その後の三次感染が起きないことを期待したいと思います。その後次第に咳なども回復し、元の状態に戻りますが、数日～1週間ほどかかるでしょう。

肺炎や中耳炎などの合併症があれども、発疹期は症状が強く、入院治療が必要になることが多いです。

●合併症

麻疹は免疫能を下げるので、細菌感染を起こしやすくなります。中耳炎も15%で起きると言わっています。

肺炎も起きやすく、細菌感染のもの他にウイルス性のものも起きます。場合によってはこれが死亡の原因になります。

脳炎の合併も起こります。後遺障害を起こしたり、死に至ることもあります。

●予防法

予防接種を受けることが唯一の予防法です。1回の接種では95～98%の効果があると言われています。1回の接種だけでは不十分なので、もう一度接種を受けます。

日本では1歳代で1回目、保育園の年長で2回目の接種を受けるようになっています。

さらに、罹患後数年してから起きる亜急性硬化性全脳炎（SSPE）があります。感染後には普通に生活し、知能なども悪くないのですが、小学生くらいになると意識状態が悪くなり、死亡するものです。悲惨な状態です。

生後半年ほどまでは母親からの移行免疫があるのですが、生後半年以降は免疫がほぼなくなります。

1歳になつたら早めに予防接種を受けるようにお願いしています。さ

れども、一般的な対症療法です。でも、発疹期は症状が強く、入院治療が必要になることが多いです。

肺炎になると、特別な治療はありません。一般的な対症療法です。でも、発疹期は症状が強く、入院治療が必要になることが多いです。

●治療

麻疹になると、特別な治療はありません。

その前にも予防接種を受けることも考慮してください（任意接種）。